

名古屋市内の県・市指定無形文化財一覧

文化財名称（保持団体名）

県指定無形民俗文化財
桜の棒の手
(神影流桜の棒の手保存会)

県指定無形民俗文化財
守山の棒の手
(守山棒の手保存会)

市指定無形文化財
催馬楽桜人
(催馬楽桜人保存会)

市指定無形文化財
志野流香道
(志野流香道松隠会)

市指定無形民俗文化財
名古屋港筏師一本乗り
(名古屋港筏師一本乗り保存会)

市指定無形民俗文化財
七所社「きねこさ祭」
(きねこさ祭保存会)

市指定無形民俗文化財
中根町「見当流棒の手」
(中根東八幡社見当流棒の手保存会)

市指定無形民俗文化財
鍋屋上野町「源氏天流棒の手」
(鍋屋上野町源氏天流棒の手保存会)

市指定無形民俗文化財
善進町「真影流棒の手」
(善進町真影流棒の手保存会)

市指定無形民俗文化財
猪高町「鷹羽検藤流棒の手」
(猪高町鷹羽検藤流棒の手保存会)

市指定無形民俗文化財
平針「木遣り音頭」
(平針木遣り音頭保存会)

市指定無形民俗文化財
出来町天王祭の山車行事
(古出来町お祭囃子保存会)

市指定無形民俗文化財
高針棒の手
(高針棒の手保存会連合会)

市指定無形民俗文化財
筒井町天王祭の山車行事と神皇車
(神皇車保存会)

市指定無形民俗文化財
花車神明社祭の山車行事と唐子車
(内屋敷唐子車保存会)

市指定無形民俗文化財
筒井町天王祭の山車行事と湯取車
(湯取車保存会)

市指定無形民俗文化財
花車神明社祭の山車行事と二福神車
(下花車二福神車保存会)

市指定無形民俗文化財
花車神明社祭の山車行事と紅葉狩車
(紅葉狩車保存会)

市指定無形民俗文化財
出来町天王祭の山車行事と鹿子神車
(西之切奉賛会)

市指定無形民俗文化財
出来町天王祭の山車行事と河水車
(中之切奉賛会)

市指定無形民俗文化財
若宮祭りの山車行事と福祿寿車
(若宮八幡社福祿寿車山車保存会)

市指定無形民俗文化財
牛立天王祭の山車行事と牛頭天王車
(牛頭天王車山車保存会)

市指定無形民俗文化財
有松祭りの山車行事と布袋車
(有松天満社文楽部)

市指定無形民俗文化財
有松祭りの山車行事と唐子車
(有松天満社文楽部)

市指定無形民俗文化財
有松祭りの山車行事と神功皇后車
(有松天満社文楽部)

市指定無形民俗文化財
比良祭りの山車行事と二福神車
(北比良山車保存会)

市指定無形民俗文化財
比良祭りの山車行事と湯取神子車
(湯取神子車山車保存会)

市指定無形民俗文化財
戸田祭りの山車行事と白山社山車
(郷土芸能保存会)

市指定無形民俗文化財
戸田祭りの山車行事と神明社山車
(戸田五之割神明社山車保存会)

市指定無形民俗文化財
戸田祭りの山車行事と鈴宮社山車
(戸田三之割山車保存会)

市指定無形民俗文化財
戸田祭りの山車行事と天神社山車
(戸田祭りの山車行事と天神社山車保存会)

市指定無形民俗文化財
戸田祭りの山車行事と八幡社山車
(八幡社山車保存会)

市指定無形民俗文化財
鳴海表方祭りの山車行事と唐子車
(相原町山車保存会)

市指定無形民俗文化財
大森天王祭の山車行事
(大森天王祭山車奉賛会)

市指定無形民俗文化財
鳴海祭(裏方)の山車行事と
丹下・北浦・花井・城之下の山車
(成海神社山車保存会)

市指定無形民俗文化財
鳴海祭(表方)の山車行事と作町・
根古屋・本街・中嶋の山車
(鳴海表方祭り保存会)

市指定無形民俗文化財
大森郷祭のオマント行事
(大森共存会)



郷土芸能祭



とき 10月18日(土)

ところ オアシス21

棒の手公演

午前10時

芸能公演

午後4時



第71回名古屋まつり郷土芸能祭(出演団体一覧)

《棒の手公演》 令和7年10月18日(土) 10:00~12:00 会場:オアシス21

順番	出演時間(予定)	棒の手名	団体名
1	10:05~10:15(10分)	善進町真影流棒の手	善進町真影流棒の手保存会
2	10:25~10:35(10分)	大森検藤流棒の手	大森検藤流棒の手保存会
3	10:45~10:55(10分)	中根町見当流棒の手	中根東八幡社見当流棒の手保存会
4	11:05~11:15(10分)	神影流桜の棒の手	神影流桜の棒の手保存会
5	11:25~11:35(10分)	鍋屋上野町源氏天流棒の手	鍋屋上野町源氏天流棒の手保存会
6	11:45~11:55(10分)	猪高町鷹羽検藤流棒の手	猪高町鷹羽検藤流棒の手保存会

《芸能公演》 令和7年10月18日(土) 16:00~18:00 会場:オアシス21

順番	出演時間(予定)	芸能名	団体名
1	16:10~16:25(15分)	正調名古屋甚句	正調名古屋甚句保存会
2	16:35~16:50(15分)	古出来町「お祭囃子」	古出来町お祭囃子保存会
3	17:00~17:15(15分)	催馬楽「桜人」	催馬楽桜人保存会
4	17:23~17:38(15分)	平針木遣り音頭	平針木遣り音頭保存会
5	17:45~18:00(15分)	尾張の曲太鼓	尾張新次郎太鼓保存会

問い合わせ先

〒461-0001 名古屋市中区泉一丁目1番4号
Tel.052-253-9278 Fax.052-253-9217

名古屋市教育委員会事務局 生涯学習部文化財保護課

この冊子は古紙・リブを含む再生紙を使用しています。

棒の手公演

オマントウ（馬の塔）が社寺に奉納されるときには、飾り馬の左右・前後に鉄砲や武器を持った警護役が必ずつき、社寺境内に入るとこれらの武術も披露されました。その中の1つが棒の手です。棒の手の起源は、棒の持つ呪術的な要素が発達した神事芸能とする説、農民が自衛のために始めた武術芸能とする説があります。また、一説によれば、天文23年（1554）、尾張の岩崎城主（現日進市）が、棒の手の術にたけた者を集め猿投神社に詣でたのに始まるともいわれていますが、定説はありません。棒の手は、その名前のとおり、木製の棒と竹刀で演ずるもの（表型）を基本としますが、江戸時代末期になると、太刀、十手、薙刀、槍、鎖鎌、長柄鎌などのキレモノを使うもの（裏型）が人気を呼ぶようになりました。棒の手にはさまざまな流派があり、棒の使い方（手という）は秘伝となっています。

善進町真影流棒の手

善進町真影流棒の手保存会（港区）

発生は、弘化元年（1844）頃からといわれ、熱田神宮の祭礼に、馬の塔が奉納され、棒の手も奉納されてきた。善進町では、昔は男子満16才の元服から、40才までの若者がこの技に精進し、村の氏神、神明社の祭礼に必ず奉納されてきた。近年は子供も参加している。服装は紺無地黒襟の野良着姿で行われている。名古屋市指定無形民俗文化財。

大森検藤流棒の手

大森検藤流棒の手保存会（守山区）

大森に棒の手が伝わったのは、天文19年（1550）のこととされている。永禄11年（1568）、柴田勝家の家臣、毛受家照によって、むやみに人を殺傷しない、仏道の精神を生かした独特な検藤流の型がみ出されたとされている。古くから、社寺の祭礼などに余興として奉納され、村の若者の義務として現在まで継承されてきた。また、検藤流の奥義を伝える「奥伝巻書」は、大森の法輪寺に現存しているが、みだりに見ることは許されていない。世の中が移り変わる中、消滅の危機に瀕したこともあったが、保存会を結成し、後継者の養成などを熱心に行い、現在は再び興隆の時期を迎えている。愛知県指定無形民俗文化財「守山の棒の手」のうちの1流派。

中根町見当流棒の手

中根東八幡社見当流棒の手保存会（瑞穂区）

天文23年（1554）の頃からこの地に始まったという見当流の創始は、加賀の本田遊無公なる人が奥義を究めたことによるといわれている。当時の中根城主織田信秀の子信照（織田信長の弟）がこの棒の手の妙技を以後大いに奨励したといわれている。明治元年の明治天皇御東遠の折熱田の八丁囃で展覧に供したという言い伝えがある。村社・東八幡社の祭礼（毎年10月第2日曜日の午後より）には天下泰平・五穀豊穰・子孫繁栄を祈願し、この技を重要な神事芸能とし古来より奉納され続けている。名古屋市指定無形民俗文化財。

神影流桜の棒の手

神影流桜の棒の手保存会（南区）

大正5年（1916）に建てられた「桜の棒の手保存記念碑」によれば、源義経が棒術を始め、その後美濃の加藤新五右衛門が、江戸城本丸で指南している時に、尾張の熊六右衛門に伝授され、その正統が桜に伝えられたという。型は48手裏表といわれ、奥義皆伝を受ける時には、止血の法を同時に授かるという。愛知県指定無形民俗文化財。

鍋屋上野町源氏天流棒の手

鍋屋上野町源氏天流棒の手保存会（千種区）

鍋屋上野町の棒の手は、源義家の子孫とされる三河国の吉良三郎義康を始祖とする流派と伝えられる。流派名「源氏天流」は、これにちなんで名づけられたという。明治2年に猪子石村の酒井又右衛門から当地の人々が極意免許を受け、この地に広まった。戦後一時衰えたが、昭和27年に保存会が結成され、平成24年には保存会結成60年となり、棒の手の伝承や後継者の育成に努めている。名古屋市指定無形民俗文化財。

猪高町鷹羽検藤流棒の手

猪高町鷹羽検藤流棒の手保存会（名東区）

天文頃、真師流・起倒流の名で行われていたと伝えられ、寛政5年（1793）8月1日の銘記のある許状がある。昔この地の柴田宇八が岩作村の加藤家の養子となり、岩崎の鷹羽検藤流の家元からこの奥義を伝授され、東一社（現在、名東区貴船学区内）の人々と共にこの流を広めたものである。名古屋市指定無形民俗文化財。

芸能公演

名古屋市内に伝承されている伝統文化の多くは、尾張藩が開府してからのものです。従って、現在まで伝わる郷土芸能のほとんどが江戸時代以降のものです。

公演する郷土芸能は、いずれも貴重な文化財であり、今回のために特別に演じていただきます。秋の宵の一時、郷土芸能の熱演をお楽しみください。

正調名古屋甚句

正調名古屋甚句・名古屋名物
正調名古屋甚句保存会

発祥は明らかでないが、文化年間（1804～1818）に城下町から宮の宿にかけて流行していたという記録がある。

ㄱアーエ 恋のやア
鯉のこいの、鯉の滝のぼりや
なっというてのぼるエー
山をやー川にしよう
コリャーいうてのぼるエー

ㄱアーエ さらばやア
これから 甚句を変えて
今のや はやりのストコ節でも
エエ きておくれエー

ㄱアー 宮の熱田の二十五丁橋でエ
アー西行法師が腰をかけ、東西南北見渡して、これほど涼しいこの宮を、たれが、熱田と、ヨーオ、ホホ、アーアーアー、名をつけたエー、トコドッコイ、ドッコイショ

ㄱアー 清須越なる歴史の路はアエー
アー信長様から権現様
大筒花火に宿場町
象も通ればお茶壺様と
吉例街道とヨーオ、ホホ、
アーアーアー唄まれたりエー
トコドッコイ、ドッコイショ

ㄱアー 花の名古屋の碁盤町はエー
アー都に負けない京町や竜宮浄土の魚の棚、七珍万宝つめこみし、大黒どのの袋町、広小路から見渡せば、なかなかとどこかぬ鉄砲町、

次第しだいに末広の、家並はつづく門前町、さても名古屋のヨーオ、ホホ、アーアーアー繁昌ぶりイ、エー、トコドッコイ、ドッコイショ

ㄱアー 尾張大納言さんの金の鯨鯨のいうこと聞けば、エー、アー文明開花の世となりて、高い城から下されて、とがな私に縄をかけ、離れぼなれの箱のうち、蒸気船にどのせられて、東京迄も送られて、博覧会にさらされて、幾十万の人びとに、鯨じゃ鯨じゃと指され、こんなにくやしいことはない、いっそ死んだがましかいな、一人で死ぬのはよけれど、お前と一緒に死んだなら、人がしんちゅうじゃとヨーオ、ホホ、アーアーアーいうであろうエー、トコドッコイ、ドッコイショ

ㄱアー ままになるなら、横綱はらせ
アー廻しの横綱は隅田川、百本杭に都鳥向うの空に富士の山、高く打ち出す回向院、櫓太鼓はてんと、音の響やしののめに主と地頭がヨーオ、ホホ、アーアーアしてみたいエー、トコドッコイ、ドッコイショ

名古屋名物

名古屋名物 おいてちょうだーもに、すかたらんに、おきやあせ、ちよっとも だちゃかんと ぐざるぜえも、そうきやも そうきやも、なんだやあも、行きヤアすか おきヤアすか どうしゃあす。おみやはまこの頃どうしゃあた、どこぞに姫でもできせんか、できたらできたといやあせも、わたしも勘考があるわあも、おそぎやあぜえもー

古出来町「お祭囃子」

車切・神楽・そそり・人形囃子・帰り囃子
古出来町お祭囃子保存会

古出来町の天王社の祭礼に出す山車の囃子で、車切囃子・神楽囃子・そそり囃子・人形囃子・帰り囃子がある。このうち人形囃子は古出来町独特のもので、獅子頭をつけた唐子が今一人の団扇太鼓をもつ唐子の

催馬楽「桜人」

催馬楽桜人保存会

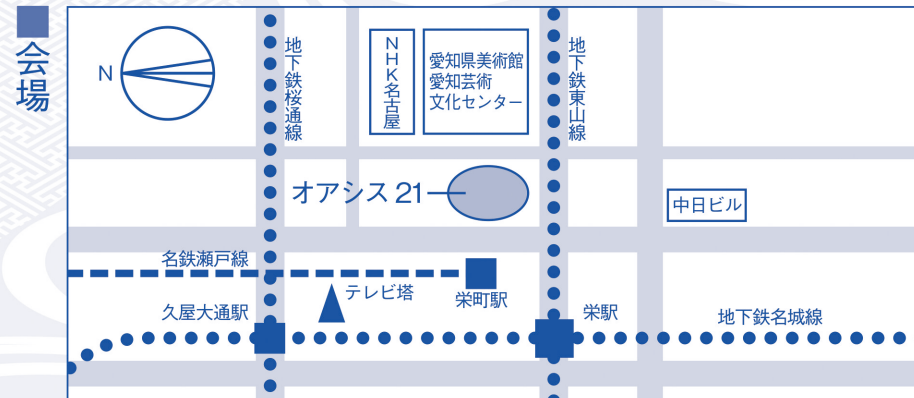
催馬楽は雅楽の謡物の一種で雅楽器を伴奏とする声楽曲。平安時代に各地の民謡がもとになって生まれた。名古屋で催馬楽「桜人」の譜が発見され、復元されたのが昭和30年頃。保存会によって今に継承されている。ここでいう桜は南区桜台、桜本町、元桜田、霞町あたりをさし、桜人の歌詞には名古屋の地名が散見される。

右肩へ左手をかけグイと逆立ちして獅子を舞うときの囃子である。土地では享保年間にはじめられたと伝えられている。

名古屋市指定無形民俗文化財。

【歌詞】
一段 桜人 その舟止（ちぢ）め 島つ田を 十町（とまち）つくれる
見て帰り来むや そよや 明日帰り来むや そよや
二段 言をこそ 明日とも言はめ 彼方（をちかた）に 妻去る夫（せな）なれ
明日もさね来じや そよや し明日もさね来じや そよや

【歌詞大意】
一段 （夫）さくらの人、その舟止めてくれ。離れ島に十か所も田を作っている、それらを見回って帰って来よう。明日には帰ってくるよ。
二段 （妻）言葉では帰ってくると仰いますが、あちらの遠方には長らく放っている別の妻がいるんだから、どうせ明日も明後日も帰って来ないでしょうよ。



芸能公演

平針木遣り音頭

とさのこまごと・手斧始式・年代記・とさ

平針木遣り音頭保存会

平針の木遣り音頭のルーツは、諸説が考えられますが、慶長 15 年（1610）名古屋城築城の際の木遣り音頭、即ち築城木遣り音頭を伝承したものと考えるのが妥当でしょう。

築城資材の石材や木材の運搬等この工事の間、当時人夫としてかり出された平針始め名

古屋周辺の農民達が、他国から来た人夫の歌う木遣りを覚えたものと思われます。その時の木遣りは工事の際、調子を合わせ、威勢を高める目的で指揮者（「かけ」）と作業者（「受け」）で歌われたものです。

従って、木遣りは元来、神社、仏閣をはじめ築城造営工事の際の労働作業歌（地塙唄、道行唄、手休み唄）でありましたが、家屋の建築をすることは、即ち慶事でもありますから、後になって結婚式などの諸行事における祝言歌としても伝承され、今日に至っております。

名古屋市指定無形民俗文化財。

とさのこまごと

よんよーいよんやね
（よいよい よー いやね）
よんよーいよんやね
よいこんかけて 若い手（よいよい）
木曽の山は 檜 榎 御山で（よいよい）
谷から谷底から（よいよい）
おこつり出した 楠の大木は（〃）
長さが 三十六間で（〃）

その又 末口が三尺と八寸で（〃）
この又 大木をもの上手が集りて（〃）
おわ車に ちょいとのせて（〃）
おわ車を 曳くときは（〃）
木遣りで 采を振りたてて（〃）
西や東や北南
文字に書いたら 十文字（〃）
よいよい よいやね

手斧始式

先ず今日のお祝いに
かしこき神のイエー 教えには
天地の間に 和合して
陸に打ちたるイエー 墨金は
曲りておれど 曲尺は
四角四面とイエー 成りにけり
鉋使いのやわらかさ
七五三にとイエー 手斧打ち
大工諸職が 集りて

えーとやーとでイエー 槌を打ち
御棟上げとは 今のこと
おいかけなつかの つなみごとに
よく揃った
（よい）
やーありおいかけになっかの
つなんえ
（えんや
はりは さーのーえー）

年代記

やあんそうーはにーえーえんそう
五葉はにえーにめでたあの
（ひんやえーえーめでたあの
ひんやりー こりはのせー）
若松さまよーおーいなーあーあー
はーえんえー枝も
（ひんやりえー枝えーえー栄えて

ひんやりえーこりはのせーい）
葉も繁るーうーういなー
こいーえーえもしよー
（さかい女の年代
年代記 ともやれ
これはい こいーえーえーもしよ）

とさ

よんよーいよんやね
（よいよい よー いやね）
さあーらば 賑やかに えんやね
（えーえんやーえーえんやー
梁はさの えんやこの さやあれ この
じよさいは ござらのえー）
えーえー じよさいなくとーえもーえい

えーはりやーそおーにえい
（そおにそおおーにそおー）
したにあーない よいこにえい
えーかけよい よい よーい いい
よい よーい いいえー
（はあよい よい よいやーね）

尾張の曲太鼓

神楽・わたよせくずし・森津・神来舞

尾張新次郎太鼓保存会

愛知県西部の農村地帯では、古くから競争で太鼓を叩いて、秋の豊作を祝ってきた。しかし、太平洋戦争、そして昭和 34 年の伊勢湾台風を経ると、だんだん人々にも忘れられ、祭囃子を知る古老さえも少なくなってしまう。それを悲しんだ故西川新次郎は、自分の覚えた神楽太鼓を、港区や中川区などの村々へ精力的に伝えた。昭和 54 年、この教えを受けた弟子たちが一堂に集い、尾張新次郎太鼓保存会を結成した。現在、会員は 300 人である。

尾張新次郎太鼓保存会の太鼓は、大別して曲太鼓と神楽屋形太鼓の二種類に区別することができる。前者は、長胴太鼓と締太鼓を座して、桧製のバチを回転させたり、飛ばしたり曲芸をしながら通打するもので、曲目には、神来舞、わたよせくずし、森津などがある。後者は竹を細く割ったバチで、屋形の上に乗せられている長胴太鼓と締太鼓を立て叩くもので、長胴太鼓は、破れる寸前まで張ってあるので、非常にかん高い音がする。それぞれ神楽笛に合わせて奏打する。これらの太鼓は、江戸時代に熱田神宮の神楽から発生したものである。